（学年）　４年	（日にち）　６月２４日，２７日

（教科・単元名）　道徳　『白いつえの人』（２時間扱い）

（実践）目の不自由な人に出会ったとき、どのように接していけばよいか考え、正しい介助の仕方を理解する。

【授業の流れ】

この授業に入る前に国語「手と心で読む」を学習し、筆者の伝えたかった内容の読み取りを行っている。その後もっと調べたいことを出させ課題作りを行い、身の回りの点字を調べる、点字を読む・打つの学習を行っている。

１．「白いつえの人」を導入として扱い、介助の仕方を考える（１時間）

（１）　ページの部分を資料として提示し、範読する。

（２）　発問①「一緒に向こうへ渡ってあげよう」と思った主人公をどう思いますか。

・優しい　・親切　・勇気がある　・知らん顔しないでえらい

（３）　問②手を引かれた白いつえの人は、何を考えたのですか。

・こわい　・どこかに連れて行かれてしまう　・ひったくり

（４）　発問③主人公は、どうすればよかったのか。

・声をかける。　・いきなり手をひっぱらない。　・肩をたたく。

（５）　発問④どんな声かけをすると良いか。

・「横断歩道を渡られるのですか。一緒に渡りましょうか。」

・「何かできることは、ありますか。」　・「困っていられるようですね。」　・こんにちは

（６）　発問⑤実際に横断歩道を渡るときにどんなふうにお手伝いしてあげますか。

・背中を押す。　・腕をひっぱる。　・肩を押す。　・手を引く。

（７）　（６）で発言した児童にアイマスクをつけ試してみる。どの方法も怖い。

→目の不自由な人に肘の少し上を持ってもらい、自分は、一歩前を歩くようにする。目の不自由な人が、自分より背が高い場合は、自分の肩をつかんでもらう。

黙って歩かないで、声かけをする。（物、場所、動作を教えよう。）「半分ぐらい渡りました。」「段差があるので気を付けてください。」「止まります。」

２．二人組みになって介助の練習をする。（１時間）

・　出会った時の声のかけ方。

・　一人がアイマスクをつけ、一人が介助者となり歩行する。

（学習のふりかえり）

○１時間目の話し合いでは、どんなふうに接すればよいかよく考えられていた。児童の感想は、「練習をして、上手にできるようにしたい。」「相手のことを考えて優しく接することが大切だ。」「いきなり手を引っ張られたらこわい。勉強してよかった。」「自分だったら見ないふりをしてしまうが、どうすればよいか分かったので、手助けをしたい。」等様々であった。

●２時間目の体験では、アイマスクをつけて歩くことは、とても怖いという感想が多かった。介助の人が声をかけてくれたり、ゆっくり歩いてくれたりしても怖かったと思う児童が多かったので、一人で歩く体験をさせ、その後介助の人についてもらう方法をとったほうが良かった。先にアイマスクをつけて歩いた児童の方が、相手を怖がらせないように声かけをし、相手を気にしながら歩く様子が見られた。

●１時間目の話し合いの中で、児童はよく考えて参加していたが、この授業をする前にアイマスク体験をし、目の不自由な人の気持ちを考える学習をしておくと発言内容の中に、体験から得た意見が加わってきたのではないかと思われる。